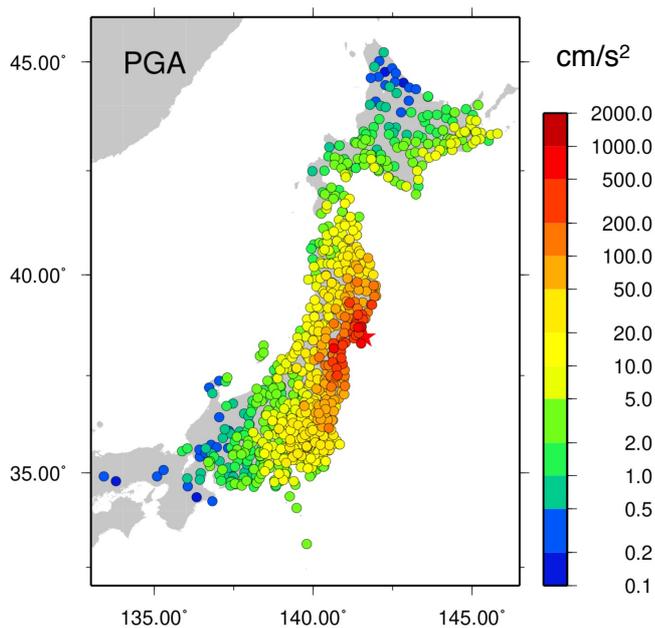


観測された強震動データ (防災科研K-NET, KiK-net)

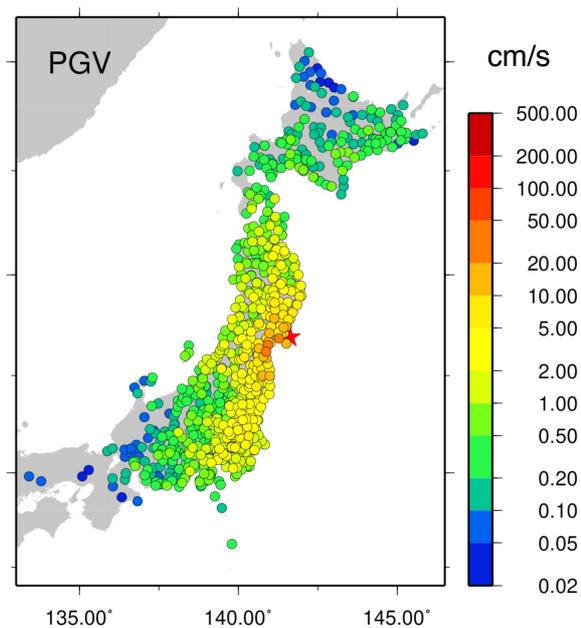
国際地震工学センター
林田

2021/03/25 日本語版作成

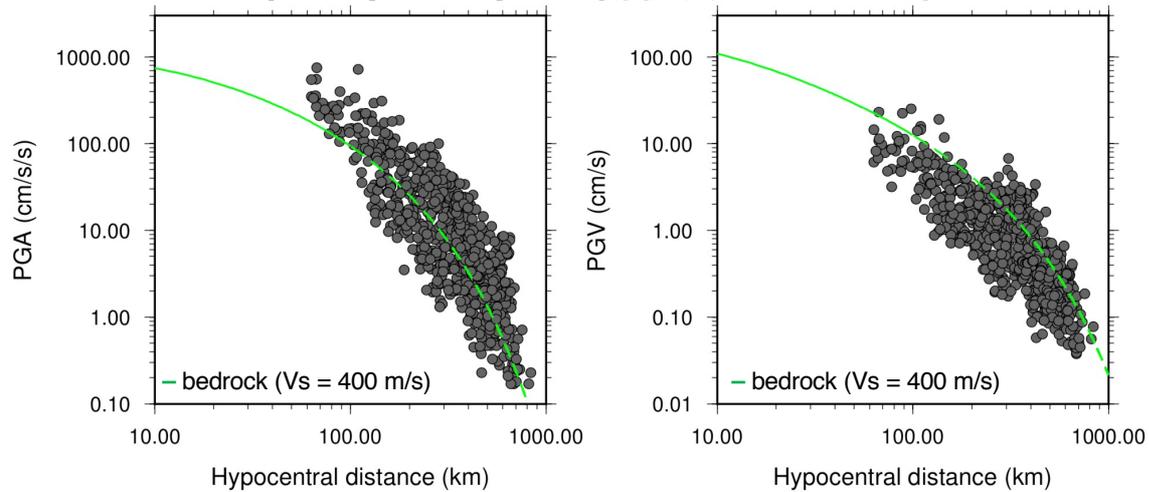
地表最大加速度



地表最大速度



司・翠川 (1999) の距離減衰式との比較



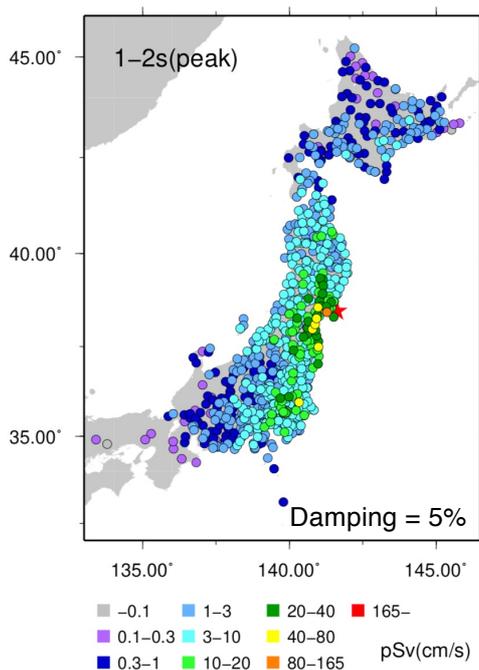
- 震央距離60~100 kmの範囲では、観測された最大加速度が予測値を若干上回る
- 観測された最大速度は、予測値と比べて全体的に低い傾向にある

※ 横軸は「震央距離」です。「断層最短距離」ではありません。

※ 予測式における地震タイプを「プレート間地震」としています。

※ 司・翠川 (1999) の式は距離100kmまでを対象に作成されたものです。100km以遠は参考値として点線で表記しています。

速度応答スペクトル (pSv; 1~2 秒間のピーク)



- 周期1~2秒の範囲では、165cm/sを超える応答は確認されなかった
- 最大値はK-NET石巻観測点 (MYG010) で観測された
- 応答が40~80 cm/sを示す観測点は、主に仙台平野に位置している

謝辞:

本資料の作成にあたり、国立研究開発法人防災科学研究所の強震観測記録 (K-NET and KiK-net) を使用しました。

<https://www.doi.org/10.17598/NIED.0004>

速度応答スペクトルの算出には、大崎 (1994) の計算コードを使用しました。

作図にはGeneric Mapping Tools (GMT: Wessel and Smith, 1998) を用いました。